

東塔

目の前にある多層の建物は、薬師寺の東塔です。薬師寺は奈良の7つの偉大な寺院の1つであり、日本最古の仏教組織である法相宗の大本山です。高さ33.6メートルで、1300年以上前に建築されて以来、火災やその他の災害に耐えた、薬師寺唯一の木造建築物です。寺院にある国宝の1つである東塔には、6つの屋根があるように見えるが、建設時に当時最先端だった建築技術により3層の塔として知られています。一番上の屋根とその下の屋根の1つおきは本物の屋根であり、他の屋根は裳階（もこし）です。前者は中央の柱で支えられています。後者は主に装飾的であり、構造的要素を隠しつつ自然現象から保護するのに役立ちます。異なる大きさの屋根の独自の織り合わせは、「凍れる音楽」と呼ばれるリズムカルなバランスを提供します。日本美術のアメリカ人美術史家であり、東京帝国大学の教授でもあったアーネスト・フランシスコ・フェノロサ（1853-1908）がこの表現を使ったとしています。彼は、1897年に日本の重要文化財の最初の目録の作成にも関与し、これには東塔が含まれていました。塔の上には、青銅の透かし彫りの上で踊り、横笛を演奏する天人たちを描いた水煙があり、火から塔を守るおまじないとして機能しています。